

令和元年度インターンシップ実習生受入テーマ【課題④⑤⑥】

「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブに関する研究業務」

実習内容

近年、激化している異常気象災害の早期予測技術開発は急務である。防災科学技術研究所が研究開発を進めている気象災害の早期予測技術をコアとして、次世代センシング技術、IoT 情報技術、そしてリスクコミュニケーション技術を取り入れ、各ステークホルダーとの密接な連携により地域特性・利用者ニーズに応じた気象災害予測情報システムの社会実装を実現する「攻め」の防災に向けた気象災害の能動的軽減を実現するイノベーションハブに関する研究業務についての実習を行う。

下記研究実施場所・テーマから応募者に希望により選択する。

○気象災害軽減イノベーションセンター（茨城県つくば市）

- ・気象データ（観測・実験）解析
- ・気象災害予測情報システム実践演習
- ・野外フィールドにおける実習
- ・産学連携に関わる取り組みの実習

○気象災害軽減イノベーションセンター長岡サテライト（新潟県長岡市）

○気象災害軽減イノベーションセンター新庄サテライト（山形県新庄市）

- ・大型実験施設（雪氷防災実験施設）による実験演習
- ・気象データ（観測・実験）解析
- ・気象災害予測情報システム実践演習
- ・野外フィールドにおける実習

受入条件

大学及び大学院に在籍（大学3年以上）または高等専門学校専攻科に在籍する学生
気象学、防災学（社会科学含む）など、気象防災に関することに興味があることが望ましい
基本的なパソコン操作ができることが望ましい

受入人数

若干名

実習期間

令和元年7月中旬～令和2年3月下旬の内の1週間

実習生と受入担当者での相談により決定する